

# 盛岡の子どもたちに 「夢」と「誇り」と「志」を

●令和7年度版●

「盛岡の先人教育」実践事例



盛岡市教育委員会

令和7年度版  
「盛岡の先人教育」実践事例集

目 次

- 1 盛岡市立渋民小学校
- 2 盛岡市立渋民中学校

資料 《第3期推進計画》

令和7年度

「盛岡の先人教育」実践例

〈研究主題〉

先人の生き方や考え方から自己の生き方を見つめ、主体的に  
行動する児童・生徒の育成

～小中連携を通じた先人教育の実践を通して～

盛岡市立渋民小学校

# 渋民中学校区先人教育 めざす子ども像

## 【渋民中学校区先人教育目標】

先人の生き方から自己の生き方を見つめ、主体的に行動する児童・生徒

それぞれの目標や夢などの課題に向かって、自分事として物事を決定し、実践する力

各施設  
地域の方々  
自然  
歴史  
文化 との関わり

将来こうしたい！  
今の自分は何をすべきか…

夢（目標）の実現  
進路選択

地域のために  
自分のためにできる  
ことは何だろう…

自分も  
やってみよう！

自己決定

自己有用感・郷土愛

先人の生き方を  
まねてみたいな…

もっとくわしく調べて  
みたいな…

興味・関心

あこがれ

地域の先人  
先輩方の  
生き方

渋民中学校、渋民小学校、生出小学校の特色ある教育活動  
(生活・総合学習発表会 啄木祭への参加 群読劇 等)

盛岡の先人教育(石川啄木・原敬・金田一京助・米内光政・新渡戸稲造)  
各地域の先人や先輩方の姿

各教科・特別の教科道徳・総合的な学習の時間・特別活動等

# 渋民中学校区【渋民小学校】 先人教育全体計画

**【児童の実態】**

- 生活科及び総合的な学習を通して、地域への関心はある。また、地域の人々や文化、自然への興味・関心、郷土への愛着はあるものの、地域の課題に対し主体的に取り組む姿勢及び技能がやや低い傾向にある。

**【地域の実態】**

- 盛岡の北側に位置し、田畑が広がり、自然豊かな土地である。
- 渋民は、石川啄木生誕の地として、各所に石碑や記念館がある。
- 生出は、南側は稲作、北部が畑作や酪農、地域全体に数か所の湧口があり、湧水を利用した養鱒業が営まれている。

**【保護者の願い】**

- 目標に向かって意欲をもって取り組もうとする子どもになってほしい。
- 地域のよさを知り、地域を愛する子どもになってほしい。

**【盛岡市の先人教育】**

盛岡にゆかりのある先人（原敬 新渡戸稲造 米内光政 石川啄木 金田一京助など）の生き方を学ぶことを通して、次代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛着」、「目標に向かって努力する心」を育むこと。  
 ○より良い価値を思考していこうとする豊かな心の育成。  
 ○郷土の自然の美しさ、高い文化、人々のあたたかさ、ふるさと盛岡への誇り。

盛岡の子どもたちに「夢」と「誇り」と「志」を  
 「夢」…将来に対する希望、実現したい、自分のめざす理想  
 「誇り」…自分や自分のふるさとに対する愛着、自信  
 「志」…目的や信念をもって実現に向けて努力しようとする決意

**【渋民中学校区 めざす子ども像】**

先人の生き方から、自己の生き方を見つめ、  
 主体的に行動する児童・生徒

**【渋民小学校 学校教育目標】**

- 進んで学ぶ子ども
- 進んで助け合う子ども
- 進んで鍛える子ども

**【渋民小学校 めざす子ども像】**

先人の生き方から、そのよさを知り、  
 地域を愛し、主体的に行動する児童

盛岡市第3期  
 推進計画より

**【授業について】**

- 小中学校9年間の系統性を踏まえた先人の生き方を学ぶ授業
- 先人の生き方を通して自らの生き方を主体的に考える授業
- 授業実践資料の有効活用

**【時代や思いに触れる体験】**

- 先人カレンダーの掲示
- 先人を学ぶコーナーの設置
- 俳句、短歌大会
- 一筆啓上への取組
- 先人ゆかり給食

**【教員の研修】**

- 長期休業中の研修
- 各記念館の館長、学芸員との連携

**【渋民中学校区 キャリア教育目標】**

自分や友達のよさ、個性に気づき、自分の生活や周りの環境に関心を持ち、将来の夢や希望を抱くとともに、その夢や目標に向かって努力する態度を育てる。

	各教科・特別の教科道徳	生活科・総合的な学習の時間	特別活動
1年	・道徳「お正月」「はちさんのバッジ」 ・音楽「にはほんのうたをたのしもう」	・啄木カルタで遊ぼう ・地域探検	・啄木カルタクイズ ・先人ゆかり給食
2年	・道徳「おらも医者になる」 ・国語「すてきなところをみつけよう」 ・道徳「大きなあれ しあわせになあれ」	・啄木公園で遊ぼう ・公共施設探検(渋民図書館等)	・先人カレンダーの掲示・活用 ・啄木カルタ検定(音楽委員会) ・市短歌、俳句大会
3年	・社会「まちのようす 市の様子」 ・国語「俳句を楽しもう」 ・道徳「心をつないだ言葉」 ・道徳「鄭君の秋田竿灯まつり」	・歌碑調べ ・渋民公園等、啄木関連の場所見学 ・渋民の大好きなところ	
4年	・国語「世界にほこる和紙」 ・社会「新田はどうやってできた」 ・道徳「風呂敷1枚で」 ・道徳「アメリカとの出会い ジョン万次郎のぼうけん」	・啄木ってどんな人 ・啄木記念館見学 ・ゲストティーチャーから学ぶ ・短歌調べ	・委員会活動 ・一筆啓上 ・啄木カルタ大会への取組
5年	・国語「新聞を読もう 事実にもとづいて書かれた本を読もう」 ・社会「農業・産業」 ・道徳「太陽の架け橋 新渡戸稲造」	・伝統を引き継ごう ・原敬・新渡戸稲造・	・啄木祭参加(鼓笛練習)
6年	・国語「短歌」 ・社会「歴史」 ・道徳「近代製鉄の父～大島高任～」	金田一京助・米内光正	・修学旅行 (啄木ゆかりの地へ行こう)

関連する活動	学級経営	生徒指導	外国語・外国語活動	ボランティア教育
	・自己目標の実現 ・当番活動	・自己理解・他者理解 ・粘り強さ	・日本と外国の伝統や文化の違い	・クリーンアップ作戦

学校名	盛岡市立洪民小学校	児童数	249名
研究主題	「先人の生き方や考え方から自己の生き方を見つめ、主体的に行動する児童・生徒の育成」 ～小中連携を通した先人教育の実践を通して～		

## 1 研究主題設定の理由

「目指す市民像」は、「多くの先人を育ててきた美しいふるさと岩手を愛し、豊かな心と健やかな体を持ち、自ら学び共に生きる未来を創る人」である。この市民像に迫るため、第3期推進計画のもと、「小・中学校の学びのつながりの充実」、「キャリア教育の視点（自己の在り方や生き方）」を重点とし、先人教育全体計画に基づく各学校の取組、研究指定校の実践が推進されている。

本校は、学校教育目標を「学びの道に進めかし」とし教育活動を行っている。先人の生き方や考え方を調べたり、意見を交流したりすることを通し、目標に向かって努力することの大切さを学ぶことができると考える。洪民小学校区や盛岡市にゆかりのある石川啄木、金田一京助など先人の生き方を学ぶことを通して、自分の生き方を見つめ、主体的に考え行動する児童の育成ができるとし、この主題を設定した。

## 2 研究目標

- ・自分たちの生まれ育った地域や郷土を愛し、美しいふるさとを大切にしようとする子どもの育成
- ・先人の生き方や考え方を学ぶことを通し、自分の将来の夢や希望をもち目標に向かって努力する子どもの育成

## 3 研究の基本的な考え方

### (1) 本年度の重点

- ・石川啄木の作品や遺産に触れることを通し、郷土のよさを実感し、ふるさとを大切にすることを育てる。
- ・盛岡の先人たちの考え方や、生き方を学び、行動の素晴らしさを捉え、自分の将来のあり方を考えさせる。

### (2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・定期的な担当者会議を開き、研究の方向性を確認する。
- ・先人学習に関わる交流学习などを積極的に行い、「先人教育を通じて目指す子ども像」、「先人教育全体計画」とその具体について各校全教職員で共通理解を図る。
- ・9年間を見通した系統的な指導の道筋を確認し、さらに推し進めていく。

単元名	じぶんで できるよ	学年	1年
-----	-----------	----	----

(1) ねらい

- ・よりよい自分になるためや家庭の中で自分のできる活動やそれを伝え合う活動を通して、家族の大切さや自分が家族によって支えられていること、家族と交流することのよさが分かるとともに、自分の役割を積極的に果たし、規則正しく健康に気を付けて生活したり、進んで家族と触れ合ったりすることができるようにする。

(2) 指導計画 (12時間) ※家庭での取り組みは時数として計上していない。

段階	内容
導入 (3時間)	<p>「じぶんの一日を見つめよう」 <b>※キャリア…社会を把握する力</b></p> <p>①付箋を用いて、自分の一日の行動を振り返り、自分の生活に興味をもたせる。</p> <p>②付箋を用いて家族の一日を視覚化し、家族が自分を支えていることを理解する。</p> <p>③互いの生活を紹介し合う活動を通して、自分の生活を向上する意識を高める。</p>
展開 (5時間)	<p>「じぶんでできることをしよう」</p> <p>④前時までの活動を振り返り、よりよい生活をするための自分の課題を見つける。</p> <p><b>※キャリア…健康・体力</b></p> <p>⑤家庭で取り組むために、具体的な計画を立てる。 <b>※キャリア…勤労観・職業観</b></p> <p>⑥取り組みを発表する準備活動を通して、家族の役に立った自分を実感する。</p> <p>⑦取り組みの発表を通して、友達の発表から自分の生活を向上する多くの方法を知る。</p> <p><b>※キャリア…豊かな人間性</b></p> <p>⑧次の取り組みを考える活動を通して、家族の一員としての意識を高める。</p>
終末 (4時間)	<p>「これからもつづけよう」</p> <p>⑨2回目の取り組みの発表を通して、自分が前よりも成長していることに気付く。</p> <p>⑩家族の一員としてこれからも続けていくことができる取り組みを考える。</p> <p>⑪3回目の取り組みを発表する活動を通して、これからも家族の一員として積極的に家族と関わる意識を高める。</p> <p><b>※キャリア…将来設計力</b></p> <p>⑫学習前の自分と今の自分を比較して自分の成長を感じ、これからも家族から様々なことを学ぶ意識を高める。</p> <p><b>※キャリア…豊かな人間性</b></p>

(3) 活動の様子

① 「じぶんの一日を見つめよう」 (導入段階)

付箋に自分の一日を書き出し、ワークシートに並べる活動を行った。無自覚だった自分の行動を視覚化することで、自分や家族の行動やこれからの学習に興味をもつことができた。

② 「じぶんでできることをしよう」 (展開段階)

学習のねらいや計画を学年通信で知った保護者の方は、児童の取組に助言・支援を積極的に行ってくださいました。

授業参観での児童の発表にも多くの拍手をいただき、児童は取組に充実感をもつことができた。

第8時の学習で、「おうちの人は先生だね」という児童の発言があった。教師から「そうです。みなさんより先に生まれているいろいろなことを知っている人は、どの人も『先生』です。これからも家族、そして、近所の人たちからもたくさん学びましょう」と価値付けを行った。

身近な人から学ぼうとする意識、自分が働くことの喜び、自分の働きが家族の役に立つ有用感をもつことができている。三回目の取組は、冬休みの「家族の一員としての仕事」として行う計画である。



【自分ができるようになった「たまごわり」を発表する様子】

単元名	もっと なかよし まちたんけん	学年	2年
-----	-----------------	----	----

(1) ねらい

- ・地域の人々と関わる活動を通して、地域で生活したり、働いている人々と自分たちの生活の関わりを見つけ、自分たちの生活はさまざまな人や場所と関わっていることや、地域の人々が地域に寄せる思いに気付くとともに、地域の人々に親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に生活しようとするができるようにする。

(2) 指導計画 (9時間)

段 階	内 容
導入 (2時間)	<p>「町探検の計画を立てよう」</p> <p>① 探検に行きたい場所を決め、グループを作る。</p> <p>② グループごとに探検の計画をたてて「たんけん けいかくしょ」に記入する。</p>
展開 (4時間)	<p>「グループごとに探検に行き、分かったことを伝え合おう」</p> <p>③ } グループごとに探検に行く。</p> <p>④ } 探検を振り返り、気付いたことや学んだことを記録カードに書く。</p> <p>⑤ 探検で分かったことを、他のグループの友達に紹介するための準備をする。</p> <p>⑥ 探検で分かったことを紹介し合う。</p>
終末 (3時間)	<p>「分かったことを、石川啄木とともに学習発表会で広めよう」</p> <p>⑦ 本校の卒業生の石川啄木と、町探検で学習してきたことを融合した劇を、学習発表会で行うことを知る。</p> <p>⑧ 探検で、どんな分かったことを地域の人々に知らせたいかグループごとに話し合う。</p> <p>⑨ 知らせたい内容を、2年生全体で確認し合う。</p> <p>【探検場所「花坂商店」「渋民郵便局」「みんなのおうち玉山」「CAFÉ MOCA」】</p>

(3) 活動の様子

① 「町探検の計画を立てよう」(導入)

春の町探検では、渋民の町を3回に分けてクラスごとに探検し、学習したことを基に絵地図を作った。この町探検を想起させ、「もっと〇〇に行ってみよう」「もっと〇〇を詳しく知りたい」という思いや願いを生かした探検先を決めるようにさせた。各クラス2か所ずつ探検することとし、1グループを10人前後とした。

② 「グループごとに探検に行き、分かったことを伝え合おう」(展開)

・「花坂商店」で分かったこと

地域で一番古い商店で、創業92年であることに驚いた子どもたち。お店は7時～21時まで営業しており、近隣に大きな商業施設はあるが、早朝や遅い時間にも買い物ができる地域に密着している。ノートや鉛筆など、買い物に来たことがある子供も多かった。

昔の様子を話して下さったり、渋民の町の人達は、「優しい」「話し好き」と教えて下さったりして、子供たちは話を聞くことにすっかり夢中になっていた。お店の方は地域の交通指導員で、子供たちとは顔なじみである。毎朝学校近くの交差点に立ち、子供たちの安全を見守りながら交流を深めている。



③ 「分かったことを、石川啄木とともに学習発表会で広めよう」(終末)

子供たち全員が、それぞれの場所で違う質問をしてきて学んだので、分かったことは盛り沢山であった。その中で、特に知らせたいことを精選し、2年生全体で確認し、学習発表会の台本に盛り込むことができた。

【台本一部抜粋】

⊕ お店は、何年続いているのですか。

店 92年です。私の、おばあちゃんの代からやっています。渋民の町で一番長く続いていることが自慢です。

単元名	渋民すてき発見！！	学年	3年
-----	-----------	----	----

(1) ねらい

- ・渋民地域のすてきを発見したり調べたりする中で、関わる人々の思いや願いなどに気付き、自分たちが住む地域に親しみや誇りをもつ。
- ・渋民に伝わる伝統芸能や作物、建物を通じて、受け継いできた先人の思いを知り、これからの自分自身と地域のつながりについて考える。

(2) 指導計画 (27 時間)

段 階	内 容
導入 (3 時間)	渋民地域のすてきを発見し、くわしく調べたい内容について、課題設定を行う。
展開 (16 時間)	グループごとに課題について調べ学習を行い、情報収集や問題解決を行う。 調べて分かったことや練習してできるようになったことを、学習発表会で発表する。
終末 (8 時間)	活動を振り返るとともに、自分が考えたすてきの内容を新聞にまとめ、全体交流を行う。

(3) 活動の様子

① グループごとに調べ活動を行う。

子どもたちから出された渋民のすてきの中から、5つのグループを作り調べ学習を行った。「愛宕火防太鼓」「下田田植え踊り」の2グループは、地域で受け継いでいる方にゲストティーチャーに来ていただき、歴史について学んだり、実際に体験、練習したりすることで身近なものとして理解を深めることができた。「石川啄木」のグループは、啄木記念館の学芸員さんに教えていただいたり、校舎内にある石川啄木に関わるものを見つけたりする活動を通して、渋民小学校と深い関わりがあることや地域の先人の功績について実感することができた。「黒平豆」のグループは、渋民地域で黒平豆を栽培している方に詳しく話を聞いたり、実際に黒平豆の種や苗を見せていただいたりすることで、より愛着を深めることができた。「たみっと」のグループは、たみっとの駅長さんからお話を聞いたり実際に見学させてもらったりすることで、自分たちの地域とつなげて考えることができた。



② 発表会を行う。

自分たちが調べて分かったことや、練習してできるようになったことを中心に学習発表会で発表をした。調べ学習では、自分たちのグループが中心だったため、他のグループのすてきについて理解する場面はなかったが、発表会の練習を通して、様々なすてきを詳しく知ることができ、すてきを深めることにつながった。また、他のグループとすてきを共有することで、自分が調べたものについてもより一層愛着を深めることにつながった。発表会では、他の学年や地域の方、お家の方などたくさんの方に見てもらったり声をかけてもらったりすることで、達成感や充実感を感じることができた。



③ まとめ新聞を作る。

調べて分かったことについて、写真やカードを使ってまとめ新聞を作成した。グループで見出しを考えることで、それぞれのすてきについて見直したり、まとめたりすることにつながった。また個人での振り返りでは、自分が思う一番のすてきについて考え、受け継いできた人々（先人）の思いや願いを通して、自分の思いをたくさんの人に伝えたいと地域の一員として考えられるようになった児童が多く見られた。



単元名	「あこがれ」～啄木の夢、ぼくたちの夢～	学年	4年
-----	---------------------	----	----

(1) ねらい

- ・石川啄木の作品に触れたり、人柄や生活の様子を調べたりすることを通し、啄木に関心を持ち、自分の憧れや夢について考える。

(2) 指導計画 (22 時間)

段 階	内 容
導入 (1 時間)	・先人カレンダーで紹介されている石川啄木について学習計画を立てる。
展開 (11 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の頃に調べたことや自分が好きな短歌から啄木の人物像を想像させる。</li> <li>・啄木について知りたいことを話し合い、自分が調べるテーマを決める。</li> <li>・石川啄木について調べる。(インターネット、図書室の本) ※キャリア…確かな学力</li> <li>・啄木記念館を訪問する。</li> <li>・発表の形式、相手を話し合って決める。</li> <li>・発表会をする。 ※キャリア…豊かな人間性</li> <li>・自分の憧れや夢について考える。 ※キャリア…将来設計能力</li> </ul>
終末 (10 時間)	・連合音楽会 (啄木の歌に親しみ表現する)、学習発表会 (自分の夢を伝える) へとつなげる。

(3) 活動の様子

① 石川啄木についてグループで調べる。

石川啄木については普段の学校生活の中で触れる機会が多いが、いざ「どんな人か」と問うとよく分からない児童が多かった。そこで、「盛岡の先人」を読むところから本単元の学習を始めた。「盛岡の先人」を読んだ児童が、石川啄木について興味をもった様子だったので、「啄木について知りたいことはないか」話し合い、自分の知りたいことをテーマし、調べ学習を行った。

② 啄木記念館を訪問する。

自分が調べたいテーマを決め、学習を進めるうちに、「本やインターネットだけでは自分が調べたいことがよく分からない」ということで、リニューアルした石川啄木記念館を訪問することにした。啄木記念館で自分が知りたいことを事前にメモし、見学をした。記念館の学芸員さんが、啄木の生い立ちや人柄について詳しく教えてくれたこともあり、児童はより啄木についての知識を深めたようであった。

③ 連合音楽会や学習発表会へとつなげる。

石川啄木がどんな人だったのかをまとめるとともに、今自分が頑張っていることや、これから挑戦したいことは何かを考えさせ、まとめた内容を学習発表会で披露した。

連合音楽会では「ふるさとの山に向かひて」を毎年披露しているが、「恋し恋し恋しかり」のところの歌い方を、啄木の心情を考えながら歌うことができた。ただ歌うだけでなく心を込めて歌うことができたのは、先人学習で石川啄木の人生について学んだことが生かされた成果だったと思う。



単元名	盛岡の先人から学ぼう	学年	5年
-----	------------	----	----

(1) ねらい

- ・盛岡の先人たちの業績を知り、先人への理解を深める。

(2) 指導計画 (22 時間)

段 階	内 容
導入 (2 時間)	知っている盛岡の先人について話し合う。
展開 (15 時間)	盛岡の先人についてインターネットや本で調べたり、実際に記念館へ見学に行ったりして、理解を深める。
終末 (3 時間)	調べたことを、ポスター形式でまとめる。

(3) 活動の様子

① クリーンアップ作戦「旧渋民尋常小学校」

6月に、石川啄木記念館内にある旧渋民尋常小学校の清掃活動に取り組んだ。4月に石川啄木記念館がリニューアルしたことに伴い、県内はもとより遠方から足を運ぶ観光客の方が増えている中での清掃活動だった。活動中に、観光客の方から「石川啄木さんの後輩なのですね。きれいにしてくれてありがとうございます。」と声をかけられた児童は、「啄木は、今でもいろんな人から注目されているのだと実感した。」と振り返った。



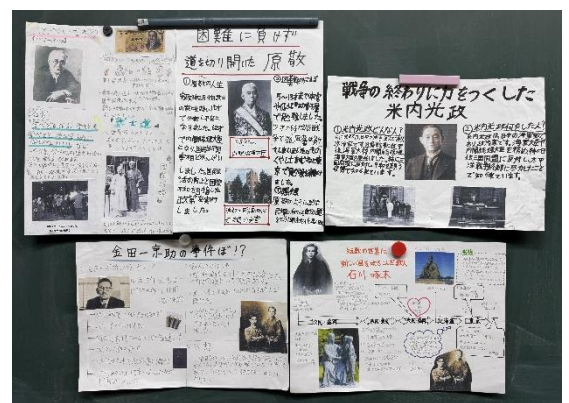
② 盛岡市の先人に目を向ける

日ごろから、渋民地域の先人である石川啄木の短歌や生き方に触れる機会が多い本校の児童。それゆえ、そのほかの先人の生き方や思いに目を向ける機会が少なかった。そこで、先人記念館と原敬記念館を訪問し、盛岡の先人についての理解を深めた。その際、盛岡の先人が世界を舞台にして活動した国際人であり、その功績や築いてきた文化があちらこちらに根付いているということに興味をもった様子だった。中でも金田一京助の展示室では、アイヌ文化の保存や、国語辞典の編纂に尽力したことへの理解を深めることができた。また、ガイドの方から「京助は所持していた本を売り払ってお金を工面し、啄木の生活を支えた」というエピソードを伺った。その後、再度石川啄木記念館にも足を運び、先人同士のつながりを感じるとともに、金田一京助の情の厚さや、執筆活動を続けることを望まれるほどの啄木の魅力など、先人たちの人柄に興味をもつ児童が増えた。



③ 先人ポスター作り

各記念館での話やインターネット、図書室の本を参考に、興味をもった先人の生き方についてポスター形式でまとめた。ふりかえりでは「～な生き方をしたい」「～な人になりたい」という願いを記入する児童もあり、先人の生き方と自分自身の生き方を重ね合わせ、よりよい生き方について考えるきっかけになったと考える。



【ふりかえり抜粋】

金田一京助・・・京助のように研究や辞典をつくるのがどのくらい大変なのか体験してみたいと思った。困っている人がいたら助けてあげられる人になりたい。

新渡戸稲造・・・わたしは稲造のように、世界のためになにもできていないけれど、クラスのみんなや周りの人たちを支えようとする気持ちは大事にしたい。

原敬・・・原敬は、先生・友人・家族、そして故郷を大切にしていた。周りの人や物を大切にすることが自分の道を切り開くのだと思う。

単元名	We love 盛岡	学年	6年
-----	------------	----	----

(1) ねらい

- ・先人の生き方のよさを知り、自分の生き方に生かそうとする。
- ・自分の成長を確かめ、今自分たちにできることを実行する。

(2) 指導計画 (20 時間)

段 階	内 容
導入 (3 時間)	修学旅行を中心とした学習全体の見通しをもち、個人の課題を設定する。
展開 (14 時間)	訪問地について調べ、見学を通して課題を解決し、記録する。
終末 (3 時間)	調べて分かったこと、活動を通して得た学びを新聞にまとめる。

(3) 活動の様子

① 事前学習 (導入 3 時間)

渋民小学校の先輩であり、盛岡の偉人として名高い石川啄木が、深い関わりをもつ函館市。啄木にとって「心のふるさと」ともいえる特別な場所が、修学旅行の訪問先として決定した。まずは、北海道函館市の人口や主な生産物など、盛岡市と比較しながら調べ学習を行った。市の特徴を掴んだところで、訪問する場所や施設などについて調査をした。生前、啄木が義弟の宮崎郁雨へ宛てた手紙の一節に、「死ぬ時は函館で死ぬ」と書き残している。児童は、「お墓参りを自分たちがする際に、啄木の一生について知らないままでは立てない」という思いで、さらに調査活動を進めた。

第8時(9月5日)には、渋民中学校の2年生6名が「先人学習交流会」のゲストティーチャーとして来校し、スライドを用いて啄木の生涯について丁寧に教えて頂いた。先輩方の発表で、さらに啄木と函館の関わりについて理解を深めることができた。

② 調査活動・修学旅行 (展開 14 時間)

9月11日・12日の日程で2日間の修学旅行へ出発した。しおりには、事前学習で得たさらなる疑問をもとに、個々の課題が記されており、特に答えにせまる見学地では、時間の限りメモを取っていた。新幹線に乗るのが初めての児童や、ホテルの宿泊が初めての児童。各々の不安と期待が入り混じる中で、函館の街並みや、啄木が見た海、路面電車や坂道など、五感を使って全身で感じてくることができた。「これ知ってる。調べた時に見たよ。」という、知識が実際の経験と結びつく楽しさを感じる様子が多くみられた。見学先の各所に、岩手の先人石川啄木を敬愛する説明があり、遠く離れた函館の地で、児童らは啄木の後ろ姿を垣間見ることができた。

③ 事後学習 (終末 3 時間)

修学旅行で学んだことを、事前学習の内容と併せて個人新聞にまとめる活動を行った。児童が撮影した写真も活用して、各々が立てた学習テーマに対する調査結果をまとめた。完成したものは下級生が見られるよう、ホールに展示した。啄木の生涯を知る中で、「生まれ育った故郷渋民(盛岡)のよさと、心の故郷函館のよさを知ることができた」という児童の感想がみられた。「All for one」の学年テーマのもと、児童が協力して役割分担や班の計画づくりを行い、遂行することができた。達成感とともに自己の成長、集団としての成長を実感する機会となったのではないかと考える。



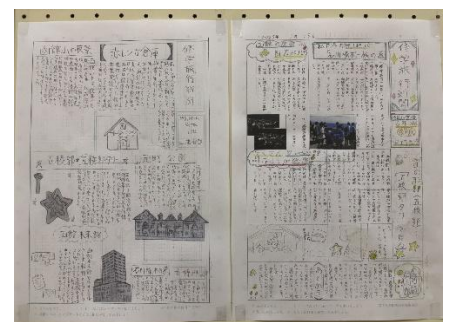
「先人学習交流会」



「結団式・班の学習テーマ発表」



「修学旅行1日目・立待岬」



「事後学習・個人新聞」

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ・石川啄木ゆかりの建物や碑等を巡り、身近に感じることができた。6年生では、中学校と連携を図りながら、啄木ゆかりの地、函館の見学につなげることができた。
- ・石川啄木について学ぶことで、夢をもちそれに向かって努力することの大切さに気付くことができた。
- ・石川啄木以外の先人についても学ぶことができた。低学年では渋民地区にいる身近な先人について、5年生は原敬や金田一京助などの盛岡の先人についても学ぶことができ、渋民のすてきなところや自分の生き方などを考えるきっかけとなった。
- ・啄木カルタ大会やカルタ検定を行うなど、全校で啄木について親しむ機会を作ることができた。

### (2) 課題

- ・「小・中学校の学びのつながりの充実」については、まだ十分とは言えない。「年間指導計画のどの部分で交流していくことができるのか」、「どのように関わりをもたせることができるのか」を渋民中学校と話し合いながら今後の先人学習の推進を図っていく必要がある。
- ・9年間を通して学習内容が段階的、継続的に発展し、児童が自分の思いを生かしながら取り組むことができるよう、今年度の学習を次年度に引き継いでいく。

学 校 名	盛岡市立渋民中学校	児童・生徒数	161 名
研究主題	<p>先人の生き方や考え方から自己の生き方を見つめ、 主体的に行動する児童・生徒の育成</p> <p>～小中連携を通じた先人教育の実践を通して～</p>		

## 1 研究主題設定の理由

「目指す市民像」は、「多くの先人を育ててきた美しいふるさと岩手を愛し、豊かな心と健やかな体を持ち、自ら学び共に生きる未来を創る人」である。この市民像に迫るため、第3期推進計画のもと、「小・中学校の学びのつながりの充実」、「キャリア教育の視点（自己の在り方や生き方）」を重点とし、先人教育全体計画に基づく各学校の取組、研究指定校の実践が推進されている。

本校は、学校教育目標を「知・徳・体の調和のとれた生徒の育成」とし、具体的な教育活動の柱として「自ら学び鍛えよう」「感謝と思いやりの心を持とう」「夢に向かって努力しよう」を掲げ、日々の教育活動を行っている。中学校区には、石川啄木の故郷として石川啄木記念館や啄木が育った宝徳寺があり、また地域の街角や店舗の前など、さまざまな場所に石川啄木の詠んだ短歌が掲示されているため、日常の中で自然に啄木の作品やその精神に触れることができる環境にあることや、啄木祭などの啄木関連の様々な行事に参加する機会に接することも多いことから、児童生徒は郷土の先人として石川啄木を発端として、具体的な人物を挙げてその生き方や考え方に触れる機会を得やすい環境にある。

それにより、先人の生き方や考え方を調べたり、意見を交流したりすることを通し、目標に向かって努力することの大切さを学ぶことができると考える。渋民小学校区や盛岡市にゆかりのある石川啄木、金田一京助など先人の生き方を学ぶことを通して、自分の生き方を見つめ、主体的に考え行動する児童の育成ができるとし、この主題を設定した。

## 2 研究の目標

- ・自分たちの生まれ育った地域や郷土を愛し、美しいふるさとを大切にしようとする生徒の育成
- ・先人の生き方や考え方を学ぶことを通し、自分の将来の夢や希望をもち目標に向かって努力する生徒の育成

## 3 研究の基本的な考え方

### (1) 本年度の重点

- ・石川啄木の作品や啄木の文学に向かう姿勢を学ぶことを通し、より高い価値や目標を志向していきこうとする豊かな心を育てる。
- ・教育活動全体を通して、自己の生き方を見つめ目標を設定し、その実現に向けて具体的な取り組みを計画し、実践に向けて粘り強く取り組む意欲を育てる。

### (2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・定期的な担当者会議を開き、研究の方向性を確認する。
- ・先人学習に関わる交流学习などを積極的に行い、「先人教育を通じて目指すこども像」、「先人教育全体計画」とその具体について各校全教職員で共通理解を図る。
- ・9年間を見通した系統的な指導の道筋を確認し、年間の各校の年間計画の中から児童生徒が交流できる機会を捉え、積極的に推し進めていく。

# 渋民中学校区先人教育 めざす子ども像

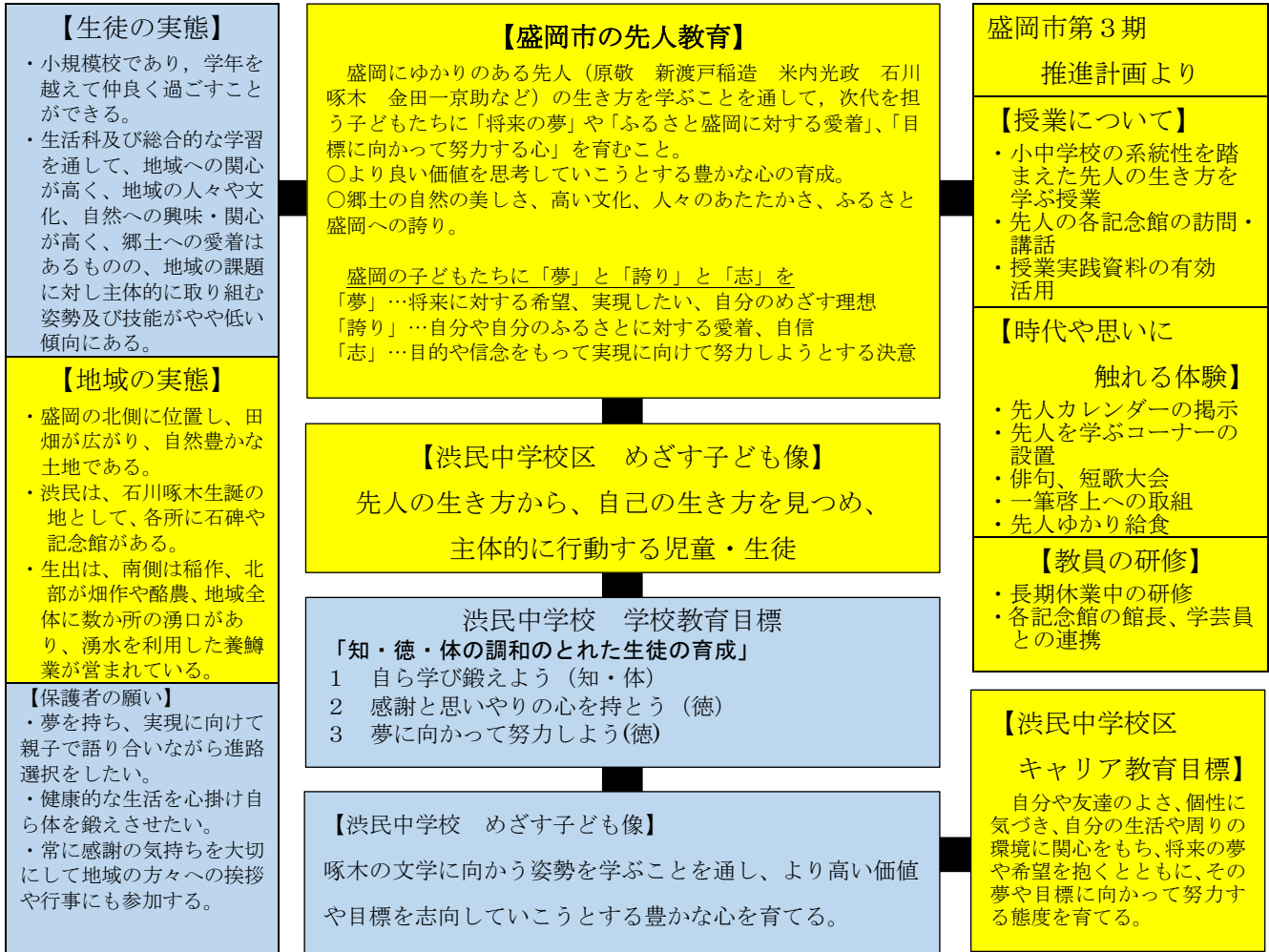
## 【渋民中学校区先人教育目標】

先人の生き方から自己の生き方を見つめ、主体的に行動する児童・生徒

それぞれの目標や夢などの課題に向かって、自分事として物事を決定し、実践する力



# 渋民中学校区【渋民中学校】 先人教育全体計画



	各教科・特別の教科道徳	総合的な学習の時間	特別活動
1年	国語・短歌・俳句作り 書写・啄木短歌の鑑賞 音楽・合唱『ふるさとの風』	啄木学習 表現活動	啄木かるた会への取り組み
2年	国語・短歌・俳句作り 書写・啄木短歌の鑑賞 音楽・合唱『ふるさとの風』	啄木学習 表現活動	
3年	国語・短歌・俳句作り 書写・啄木短歌の鑑賞 音楽・合唱『ふるさとの風』	啄木学習 表現活動	

関連する活動	学級経営	生徒指導	課外活動	ボランティア教育
	・夢に向けた進路の実現 ・共に成長する学級づくり	・思いやり、感謝の気持ちを持つ。 ・自己肯定感を高める。	・群読「風の吹くところ」 ・群読「アテルイ」	・啄木マラソン歓迎ゴミ拾い。

実践名	啄木記念館見学	学年	2・3学年
-----	---------	----	-------

(1) ねらい

- ・短歌作品の背景にある啄木の生涯を実物資料に直接触れることで郷土の偉人の生涯を実感し、郷土の文化に親しむ。

(2) 指導計画 ( 6時間)

段 階	内 容
事 前	石川啄木記念館のリニューアルオープンを機に、啄木と洪民の関わりについて振り返る。
当 日	国語の授業の一環として、石川啄木記念館を見学する。
事 後	施設見学で学んだことを振り返る。

(3) 活動の様子

① 事 前

石川啄木記念館の大規模改修及び増築工事が完了と、盛岡市玉山歴史民俗資料館との複合施設として、石川啄木の命日である4月13日(日)にリニューアルオープンすることを生徒に知らせた。小学校以降の先人教育で学んできた啄木の生涯や作品、洪民との関わりについて想起させた。



学芸員の説明を聞く様子

② 当 日

3学年が5月2日、2学年が5月14日に国語の授業の時間に徒歩で記念館へ移動し展示見学を行った。新設された大型スクリーンや常設展示の書簡等を見学し、デジタル技術を駆使した展示や、啄木が代用教員として勤務した洪民尋常高等小学校の記録から、啄木を身近に感じるとともに、啄木の生活苦や苦悩の一端を実感することができた。



新設された展示を見学する様子

③ 事 後

見学を通じて地域や石川啄木への理解がどの程度深まったかを問う事後アンケートの項目では、圧倒的多数の生徒が肯定的な回答を示した(肯定的回答率:約94%)。肯定的回答をした生徒の自由記述では、「啄木の諦めない精神」「苦手なことに挑戦すること」「人生山あり谷ありということ」「人に頼ることは恥ではない」「啄木の生き方や価値観を自分もリスペクトしていきたい」「苦しくても頑張っ生きていこうとしている姿(を学んだ)」「自分の決めた道を歩む啄木を見習おうと思った」「地元への愛(を感じた)」「若くして亡くなられているので、健康で長生きしていきたい」等、人生に対する前向きな姿勢やチャレンジ精神、努力の大切さ、人生の困難や人間関係への気付きについての多くの意見が見られた。



再公開当初のポスター

実践名	啄木かるた大会	学年	3 学年
-----	---------	----	------

(1) ねらい

- ・ 歌人石川啄木の歌に親しむとともに啄木文学の理解や浸透を図る。

(2) 指導計画（4時間）

段 階	内 容
事 前	「啄木かるた」とその意義を確認し、石川啄木の短歌に親しめる機会を設定する。
当 日	学年執行部主催による啄木かるた大会を実施する。
事 後	活動の振り返りを行う。

(3) 活動の様子

① 事 前

啄木かるたを活用し、石川啄木の短歌を遊びながら学ぶことで、地元文化への理解と愛着を深めることを確認した。学年執行部が主体となり大会の実施要項を作成し、審判・進行を分担。各学級に啄木かるた1セットを貸し出した。

「啄木かるた」は歌人・石川啄木の代表的な短歌100首の上の句が読み札として、取り札には下の句が書かれている。これにより、彼の生涯や文学観に触れることができる。



カルタ大会競技中の様子1

② 当 日

7月1日、5・6校時にかかるた大会を実施。審判が絵札の配置を確認し、旗で本部と読み手に合図して競技開始。試合は5分間で、競技者は向かい合って座り、100枚を50枚ずつ自陣に並べる。1分間の暗記後、読み手の読み上げに合わせて札を取る。

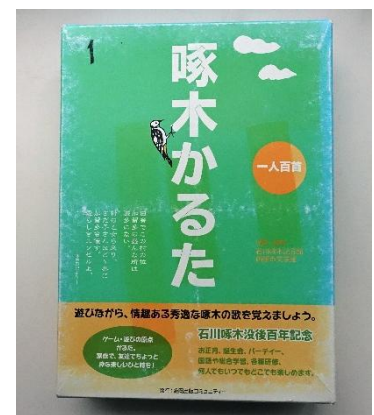
中学校1年以来の大会実施であったが、各グループとも熱心に参加し、伯仲する場面も見られた。小学校から取り組んでいる行事のため、中学校では啄木の短歌を暗記している生徒も多く、上の句の最初を聞くと素早く絵札を取る姿が印象的であった。



カルタ大会競技中の様子2

③ 事 後

事後アンケートの「石川啄木や地域についての理解が深まった」との肯定的な回答が87%であった。肯定的回答をした生徒の自由記述では、事後アンケートでは、「地域への愛着が深まった」との肯定的な回答が74%を占めた。自由記述では「啄木の生涯や短歌を知ることによって地元への興味が高まった」「地域の文化を大切にしたいと思った」「かるた大会のチーム戦や協力体験が地域行事への参加意識を高めた」等、地域の歴史や文化への理解、地域への誇りや愛着の芽生えが見られた。



大会で使用したかるた

実践名	和太鼓朗読劇「石川啄木物語ー君に与ふウター」	学年	2 学年
-----	------------------------	----	------

(1) ねらい

- ・啄木の日記をもとに、啄木の生涯とその時の心情に迫り、ふるさと浜民についての思いの深さを理解する。

(2) 指導計画 (13 時間)

段 階	内 容
事 前	・石川啄木記念館の訪問見学を通して、啄木についての理解を深める。 ・和太鼓朗読劇の鑑賞を通じて作品世界に触れ、活動への意欲を高める。
当 日	・石川啄木の日記を声に出して朗読し、お互いに発表し合うことで、各場面における啄木の心情に迫る。 ・和太鼓や篠笛などの音源を活用し、表現の工夫を重ねる。
事 後	・啄木が抱いた思いを込めた曲、「この橋の向こう」の練習を通じて、啄木の心情への理解を深め、学習の振り返を行う。

(3) 活動の様子

① 事 前

5月14日(水)、石川啄木記念館を見学し、啄木の生涯や作品に触れた。5月20日(火)には、啄木の日記をもとにした和太鼓朗読劇を鑑賞し、故郷の偉人としてだけでなく、啄木の心の葛藤や厳しい中であっても目標を失わず信念が増えることで、生徒一人ひとりが学ぶべき姿勢を感じ取った。



佐藤氏の指導を受ける様子

② 当 日

6月12日(木)、台本を班ごとに分けて音読を行い、啄木を支えた金田一京介との関係にも注目しながら啄木の心情を考察した。音読の場面では、各自がパートを担当し、発表を聞き合う中で新たな気づきを得て、表現の工夫を重ねた。



全体交流の様子

9月10日(水)には、佐藤三昭氏の指導を受け、啄木の心情や表現の工夫についてアドバイスを得た。佐藤三昭氏が浜民中学校の生徒のために作詞・作曲してくれた曲「この橋のむこう」を聴き、ふるさとに戻りたいと願いながら叶わなかった啄木の故郷への思いに心を寄せた。

③ 事 後

12月3日(水)に篠笛と和太鼓の音源と合わせながらグループごとの朗読発表を行い、エンディングで「この橋の向こう」を合唱した。佐藤三昭氏からは合唱の意味について講話をいただいた。12月19日(金)取組を通して学んだことや、石川啄木の生き方から学ぶことを個人レポートにまとめた。

事後アンケートでは「啄木の心情、生涯、故郷への思いについて理解が深まった」との肯定的回答がそれぞれ85%、88%、83%に達した。印象に残った場面として第4幕の短歌やプロローグの啄木と金田一の会話、オープニングの日記を託す場面、母の手紙、船のシーン、最後の「与ふ歌」等が挙げられ、表現の細部や人間関係、人生の節目、仲間とのつながりなど朗読劇の中でも特に意味深い場面を選ぶ生徒に理解の深まりが見られた。

実践名	渋民小・渋民中先人学習交流会	学年	2 学年
-----	----------------	----	------

(1) ねらい

- ・自分たちが学んできた北海道が啄木に与えた影響を小学生に説明することで、修学旅行での小学生の学びを深めるきっかけとするとともに、自分たちの学習のまとめとする。

(2) 指導計画（6 時間）

段 階	内 容
事 前	先人学習や和太鼓朗読劇の取組で学んだことを小学生に紹介するためのスライドの作成
当 日	作成したスライドを用いた小学生に向けた石川啄木についてプレゼンテーション
事 後	自分たちの学習のまとめ

(3) 活動の様子

① 事 前

中学生は和太鼓朗読劇「石川啄木物語－君に与ふウター」の指導を受けて学んだ内容をもとに、修学旅行で函館に行く小学校6年生に向けて石川啄木を紹介する原稿を作成した。

学年執行部が中心となり、自分たちが小学6年生の頃に修学旅行で函館を訪れた経験を振り返りながら、事前学習に必要と思われることを交えながらスライドにまとめた。



小学6年生に説明する様子①

② 当 日

学年の代表者が渋民小学校を訪問し、6年生を前にスライドを使って石川啄木について説明した。前半では、啄木について学んできた経緯や基礎知識（本名、ペンネームの由来、名付け親、亡くなった場所等）をクイズ形式で紹介し、後半では、啄木の生涯や北海道での足跡などを時系列で解説した。函館や北海道での足跡やゆかりの地も紹介し、修学旅行で訪れる場所への興味を引き出す工夫を行った。小学生は発表者と目を合わせたり、うなずいて説明を聞いたり、メモを取ったりと意欲的に発表を聞いていた。



小学6年生に説明する様子②

③ 事 後

小学生に向けて発表する機会を得たことで、中学生は小学校6年生当時に学んだ石川啄木や金田一京助についての理解をさらに深めることができた。また、新たな人物への関心も生まれ、啄木の人生について再度掘り下げるきっかけとなった。小学生の前で説明する経験を通じて、緊張しながらも自分たちの学習成果に自信を持ち、先輩としての自覚を育むことができた。

**渋民中2学年の先人学習の取組**

ふるさと盛岡のうんだ先人の生き方を学び、自分の生き方に生かしていく

**啄木かるた** → 啄木の歌に親しむ

**群読劇「風の吹くところ」** → 思春期のゆれる心情を啄木の歌と重ねる

中学校の取組を説明するスライド

実践名	第25回全国中学校総合文化祭 わかふじ大会	学年	2・3学年有志
-----	-----------------------	----	---------

(1) ねらい

- ・地域を超えた相互交流・親睦を図り、自ら意欲をもって探究する意思を育てることで、文化芸術活動の振興に資する。

(2) 年間計画 (概略)

時期	内 容
4月	新任式「歓迎の群読」披露 入学式「歓迎の群読・合唱」披露 生徒会オリエンテーション「スローガン・校歌」披露
6月	啄木祭「風の吹くところ」上演 (姫神ホール) 1年生への発表会「アテルイ」上演 「アテルイ」キャスト・スタッフ募集 (全校生徒対象)
10月	渋中祭「アテルイ」上演 (3年生引退) 「風の吹くところ」「アテルイ」キャスト・スタッフ募集 (1・2年生徒対象)
3月	3年生を激励する会「アテルイ」上演

(3) 活動の様子

① 渋民中学校の群読劇

渋民中学校の群読劇は、平成25年渋民中学校統合30周年記念式典での演目「アテルイ」に始まり、平成26年、石川啄木生誕130年を記念して、啄木の短歌や詩を取り入れた群読劇「風の吹くところ」を創作。以降、啄木祭や文化祭、県中文祭、渋民公民館20周年記念式典、国際啄木学会盛岡大会等で発表を重ねてきた。一時中断を経て、令和3年の全国中文祭出場を契機に活動を再開し、現在は「アテルイ」と「風の吹くところ」の2演目を毎年上演している。



全国中学校総合文化祭出演記念パネル

② 令和7年度の群読劇の上演

今年度は、「風の吹くところ」を6月7日(土)に姫神ホール(盛岡市渋民文化会館)で開催された啄木祭の第一部のステージ発表で上演したほか、8月21日(木)、22日(金)には静岡県菊川市で開催された第25回全国中学校総合文化祭わかふじ大会で岩手県代表として上演した。

本演目は、啄木の短歌を取り入れた群読とダンスを組み合わせ前奏的な世界観を表現している。ストーリーは、少女ログがある世界に迷い込んでいた若者ファンとの出会いを通して、生きるこの意味や大切なものを見つけ出すところで終わる。幻想的な深い海の底をイメージした、時空を越えた不思議な世界が舞台となっている。挿入歌である「白砂」と「十四」は本校卒業生による作詞・作曲で、未来への希望を歌った大切な曲として本校で歌い継がれている。

また、「アテルイ」は10月4日(土)に姫神ホールを会場に開催した渋民中学校文化祭「渋中祭」のほか、10月26日(日)に姫神ホールを会場に開催された第20回玉山地域公民館まつり、11月

10日(月)にトーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)中ホールで開催された令和7年度「いわて教育の日」【第3部】の児童生徒による発表で上演した。現在は1・2年生へと引き継がれ、3月の「3年生を激励する会」での上演に向けて練習を重ねている。

群読劇は特設部の活動であるが、全校生徒の過半数が参加し、近年は生徒会執行部の発案で渋中祭での上演のクライマックスの場面に全校生徒が登壇する場面も設けられ、本校を代表する特色ある取組となっている。

### ③ 群読劇の取組とその効果

2・3年生を対象としたアンケートでは、「風の吹くところ」が全国中文祭の岩手県代表に選ばれたことや地域の反応に対し、「誇りを持つことができた」等の肯定的な回答が83%を占めた。成果としては「人前に立って物事をやり遂げる力」「協力して物事を成し遂げる力」「全力で取り組む大切さ」等が挙げられ、協力・チームワーク、自己表現、積極性、自信、経験等、将来に役立つ多様な力を身につけていることが確認できた。また、「人前に立つのが苦手だったけど立てるようになった」「大舞台に立つ度胸」「自分に自信がついた」「仲間と協力して行事を成功させたこと」「一人の力じゃなくて、人と協力した方がスムーズに進む」等の将来に向けてためになったことや自己肯定感の向上に言及した記述も複数見られた。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

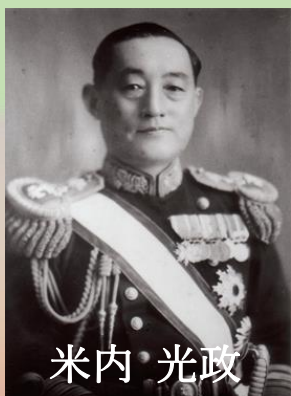
- ・地域の先人の短歌や人生から、知識の習得に留まらず「生き方」や「苦悩」への共感を生み出すことができた。特に「自分の人生」と照らし合わせて、先人の人生を「自分事」として捉える導入として有効であった。
- ・多くの生徒が活動を通じて地域理解を深め、地域への誇りや愛着を高めることができた。
- ・身体的な表現活動を通じて深い共感が生まれ、「一体感」「協力」など集団の学びへと昇華される機会を得ることができた。
- ・あきらめない姿勢や自分らしく生きる意志、挑戦する心など、キャリア教育における基礎的汎用能力の育成ができた。地域文化を外部へ発信することで、自らのアイデンティティを肯定的に捉え直す機会となった。

### (2) 課題

- ・全活動を通じて「あまり深まらなかった」「やりたいと思わない」と回答する固定層が存在することから、先人教育の目的を丁寧に説明し、事前学習を強化し無関心層への対応が必要である。
- ・競技性や伝統特有の形式に対して一部の生徒には負担感や興味の薄さを示す回答が散見されることから、活動の振り返りや体験の可視化を図り、学びを共有する必要がある。
- ・文化祭やかたるた大会といったイベント時には高揚感とともに学びが深まるが、それを日常の学習意欲や生活態度へどうつなげるかが課題である。
- ・啄木の人生の負の側面に対する率直な意見も散見されることから、「反面教師としての学び」や「多角的な人物評価」として批判的思考を受容する指導も必要である。

# 「盛岡の先人教育」第3期推進計画

盛岡の子どもたちに  
「夢」と「誇り」と「志」を



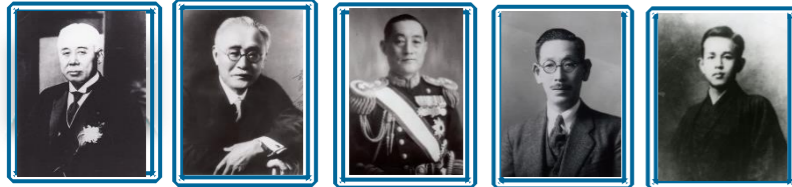
多くの先人を育んできた  
美しいふるさと盛岡を愛し  
豊かな心とすこやかな体を持ち、  
自ら学び、  
共に生きる未来を創る人を育てます

「盛岡市教育振興基本計画（2025-2029）」より

盛岡市教育委員会

# 第3期推進計画

## 「小・中学校の学びのつながりの充実」と「キャリア教育の視点」で未来につなげる「盛岡の先人教育」の実践



多くの先人を育ててきた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に生きる未来を創る人

**「キャリア教育の視点」とは**  
盛岡にゆかりのある先人たちの生き方を学ぶことをとおして、自己の在り方や生き方を考え、未来を創造する主体性を育むことをめざし、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら取り組む視点。

### 盛岡の先人教育とは

盛岡市の先人教育とは、各教科や道徳、総合的な学習の時間などの全教育課程の中で、原敬、新渡戸稲造、米内光政などの盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことをとおして、次代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛着」「目標に向かって努力する心」を育むことをめざした教育である。

この先人教育をとおして、めざす市民像として示されている「多くの先人を育ててきた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に未来を創る人」につなげるものである。

#### ～キャッチフレーズ～

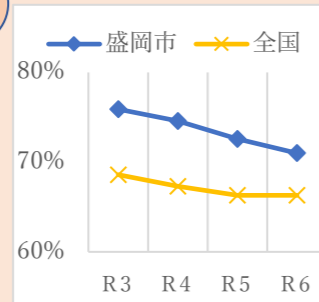
盛岡の子どもたちに「夢」と「誇り」と「志」を

- ◇夢 将来に対する希望。実現したいという願い。自分の目指す理想。
- ◇誇り 自分や自分のふるさとに対する愛着。自信。
- ◇志 目的や信念をもって実現に向けて努力しようとする決意。

### 第2期計画の成果と課題

#### 成果

- 先人教育の視点を各教科及び総合的な学習の指導に取り入れ、関連付けた指導の実施（各教科及び領域の年間指導計画の作成等）
- 各中学校区において、小中の系統性を意識



#### 課題

- 小中連携の継続と充実
- 実践の共有、地域人材の情報や指導資料の蓄積
- 先人教育の視点を各教科及び総合的な学習、キャリア教育に関連付けた学びの充実

「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合の推移（中学生）  
（全国学力・学習状況調査生徒質問紙）  
目標値80%  
（盛岡市教育振興基本計画 2025～2029より）

高等学校、大学、専門学校、社会人など

### 中学校

盛岡で、日本で、世界で生きる「夢」「誇り」「志」をもつ

### 小学校・高学年

盛岡の先人と盛岡の風土に対する「誇り」をもつ

### 小学校・低学年

盛岡の先人について「興味・関心」をもつ

### 幼稚園・保育所（園）

盛岡の自然に親しみをもつ

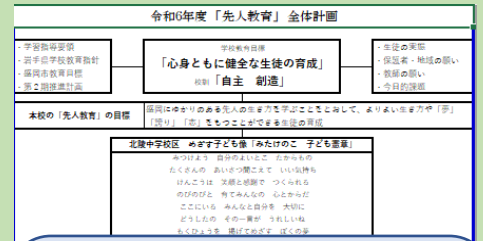
小・中学校の学びのつながりの充実

学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら取り組む視点

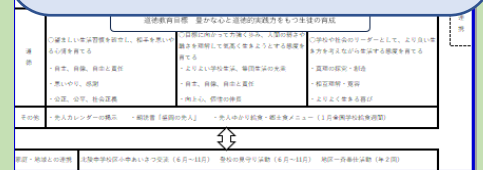


## 各学校による取組

- 小・中の系統性の整理と学びのつながりの充実
  - ・令和8年度終了までに、市内全小・中学校で小・中のつながりを整理
  - ・全体計画に基づく取組の実施
  - ・共有データの蓄積と活用
- 先人を学ぶ環境の整備
  - ・先人たちの主な経歴を掲載した「先人カレンダー」の掲示
  - ・「先人を学ぶコーナー」の設置
- 先人の生きた時代や思いにふれる取組
  - ・小中学生俳句・短歌大会
  - ・「親子の架け橋～一筆啓上～」
  - ・「啄木かるた」
  - ・先人ゆかり給食



各校で作成している  
「先人教育」全体計画



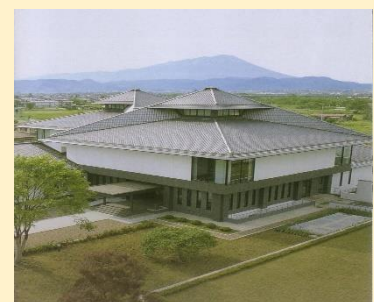
## 委託研究指定校による実践

年度	委託指定校	
7	渋民中学校 渋民小学校	市立高等学校
8	下橋中学校 桜城小学校	
9	杜陵小学校	
10	下小路中 仁王小	城東中 城南小
11	山岸小	山王小

- 教育委員会がモデル校を指定し、教育研究所発表大会にて実践発表を行う。
  - ・令和7年度は渋民小中学校区による実施
  - ・令和8～9年度以降は2年指定による実施
  - ・市立高等学校による実践発表を実施

## 教育委員会の支援

- 委託研究指定校への支援と実践の周知  
(教育研究所発表大会、実践事例集の作成)
- 「公開講座」等での教員を対象とした研修の開催
- 各学校の研修の支援  
(出前講座、各記念館の学芸員による講話等)
- 実践資料を収集し、共有データのタとして蓄積  
(学校共有フォルダ)



下部分に、小学校との学びのつながりについて簡潔に記載（中学校）

～例～

○○小学校

原敬、新渡戸稲造、米内光政、  
金田一京助、石川啄木の5先  
人についての学び

☆☆小学校

5先人に加えて、葛西萬司、  
田子一民についての学び

1年生で、地域とかかわりの深い先人葛西萬司、田子一民、  
鹿島精一について扱い、先人の学びを拡充

○○小学校

学んだ先人の功績・生き方  
についてポスターにまと  
める取組

☆☆小学校

先人の生き方について、学習  
発表会の劇を作成し表現す  
る取組

授業参観で、先人の生き方や考え方について学んだことを  
もとに、自己の将来の夢について発表する取組